令和２年度　かほく市立河北台中学校　学校評価最終報告書

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期 達成度	前期 達成度	学校関係者評価 （□報告内容と◆助言）	次年度の方向 （改善計画等）
1 ★生徒の学力向上と教員の授業力向上のために取組の充	① ★校内研究会の充実 ・ 授業力向上のための研究実践 ・ 若プロ研修の充実 ・ 講師を招聘した研修会の実施	○ 授業における「振り返り」と「まとめ」を充実させるための取組 ○ 授業者による月末の自己評価 ○ 取組の成果の公開（給湯室等での掲示） ○ 若プロ研修の充実 オンデマンド研修 カリキュラム・マネジメント研修 指導案作成のポイント ○ 学校訪問に向けての取組 共通実践に向けての校内研究会の実施 指導案様式の検討 指導案の検討・作成 ○ 学校訪問の実施 ○ 要請訪問による研究授業の実施 国社数理英体	【満足度指標】教職員 若プロなど、校内研修会が充実している	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	95% B	95% B	□ 専門家を招いてのより良い授業づくりのための研修会が充実している。今後も続けて、授業力の向上を図っていかなければならない。	○ 教材研究の充実を図っていく。特に、 ・「まとめ・振り返り」についての研修の充実と実践 ・ 意見を引き出す、つなげる授業づくりについて研究実践 ・ 授業が楽しくなる工夫
			【努力指標】教職員 課題設定や授業展開、教材教具の開発など、学習意欲の向上を図るための工夫をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A		
			【成果指標】生徒 授業では、理解しようと自分で考え、自分から取り組んでいる	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	90% A	91% A		
			【成果指標】生徒 先生や友だちの話を、分かろうとして聞いている	A:95% B:90%以上 C:85%以上 D:85%未満	98% A	96% A		○ 授業参観、授業公開の実施 ・ 互いに見合うこと、他校で参観したい授業者
	② 学習指導の充実 ・ 学習意欲を高めるための取組推進 ・ 河北台授業スタイルの構築 ・ ★少人数（数学・英語）授業の有効活用	○ 月目標の取組 6月；2分前ベル学に心がけよう 7月；テストに向けて、授業に真剣に取り組もう 8月；計画的に学習に取り組もう 9月；忘れ物ゼロと宿題をしっかりやろう 10月；テストでの学びを学習に活かそう 11月；計画的に学習に取り組もう 12月；先生や友達の話をしっかり聞こう 1月；計画的な学習 2月；最後のテストで最高の結果を 全校集会等での評価・指導の継続 担当者が分析し、その結果を掲示で啓発 ○ 少人数学習の有効活用 数学；両コースの人数配分の工夫 英語；発展コースのプレゼン学習 ○ ALTの有効活用 英語の授業、特別支援学級での活動 外国のDJのような昼放送 ○ 家庭学習時間・忘れ物調査の実施 ○ 宿題ボードの設置 ○ 定期テスト一週間前からの諸活動禁止 ○ 数学教室入り口の張り紙（ベル学のルール、忘れ物ないかの意識向上のための言葉） ○ テスト前に過去問のプリントを希望者に渡す取組 ○ 月1回の漢字、英語、数学の小テストの実施 ○ 3年租税教室の実施 ○ 文化祭の実施 合唱コンクール、学習成果発表会 ○ 放課後自主学習 生徒ラウンジにおける自習 生徒同士による教え合い学習の場の設定 ○ 授業中における小テストの実施 ○ プロ委を活用した家庭学習時間調査 ○ 小学校への出前講座の実施	【努力指標】教職員 授業の中で、課題を示している	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A		
			【努力指標】教職員 生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	95% B	95% B	□ 前期同様、ベル学など、学習規律に則りまじめに取り組んでいる生徒が多く見られる。また、3年生は放課後学習に積極的に取り組む生徒も見られる	○ 学習規律指導のより良い工夫の継続
			【満足度指標】生徒 授業は分かりやすい	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	93% A	91% A		
			【成果指標】生徒 授業で互いの考えを出し合ったり、話し合ったりする時間がある	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	90% A	88% B		
			【努力指標】教職員 生徒が取り組んだ宿題について、評価・指導を行っている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	100% A	□ 家庭学習時間が増え、忘れ物も前期より少なくなった。 □ 家庭でネットやゲームを行う時間は変わらず、多い傾向が見られる。	○ 家庭学習を充実させるための手立ての工夫 ・ 宿題の出し方、示し方、保護者との連携協力体制づくり
			【成果指標】生徒 自分で計画を立てて勉強している	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	63% D	64% D		
			【満足度指標】保護者 お子様は、自分で計画を立てて勉強している	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	63% C	59% D		
			【成果指標】生徒 平日、1日1時間以上、家庭学習をしている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	78% B	71% C		
			【成果指標】保護者 お子様は、平日、1日1時間以上、家庭学習をしている	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	69% B	59% D		

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期 達成度	前期 達成度	学校関係者評価 （□報告内容と◆助言）	次年度の方向 （改善計画等）
	③ 学力調査の有効活用 ・ 実行力の高い学力向上ロードマップの再構成と取組推進 ・ これまでの問題の活用	○ 定期テストでの検証問題の差し込みと検証 ○ 教科ヒアリングの実施（数学） ○ 2年朝学習の早期実施	【努力指標】教職員 学力向上ロードマップや学力向上プランに基づく指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A	□ 学力に若干ではあるが上昇傾向が見られる。	○ 教科ヒアリングの実施 ○ 朝学習の内容の見直し、小テストの有効活用、全校一斉テストの検証
	④ キャリア教育の視点を重視した取組推進 ・ 将来の夢や希望を持つことができる指導の工夫 ・ 総合的な学習の時間の指導の工夫	○ 職場体験に代わる「職業について学ぶ会」の実施 ○ 高校説明会の実施（2年、3年） ○ SDGsを骨子とした総合的な学習の時間の計画・実施 1年：専門家と連携した防災学習 防災士、社会福祉協議会 市役所職員、区長 3年：SDGs17の目標に準じた調べ学習 プレゼンテーションの実施 専門家の助言・講演会 ○ 文化祭における学習発表会 1年；防災学習を通して学んだこと 2年；金沢自主プランから学んだこと 3年；SDGs学習を通して学んだこと ○ 県防災フォーラムでの発表 ○ 1年いろんな人の生き方を学ぶ会 野球独立リーグ選手、FP、プロアナウンサー 動物飼育員、裁判官、校長 ○ 本物に触れよう講演会 プロアナウンサーによる講演	【努力指標】教職員 将来就きたい仕事や夢について考えさえる指導をしている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	90% A	90% A	◆ 1年生の防災学習はとても素晴らしい。地域でも活躍する人材になって欲しい。	
			【満足度指標】生徒 将来の夢や目標を持っている	A:80% B:75%以上 C:70%以上 D:70%未満	71% C	71% C	□ 総合的な学習の時間における数々の講演では、メモを取りながら聞く習慣がつくようになってきた。	○ 総合・学活・進路指導における取組の改善（探究活動、集団力向上、健康面、SDGs） ○ SDGsを骨子とした総合的な学習の時間の更なる構築と継続
			【満足度指標】保護者 お子様は、将来の夢や目標を持っている	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	63% C	63% C	□ 前期同様、学級活動や生徒会活動、部活動など、様々な活動にまじめに取り組んでいる。	
2 様々な体験活動等を通して、豊かな心と心身とも健康である生徒を育成するための取組の充	① 外部人材の有効活用 ・ ★道徳、進路関係、健康増進、読書活動、食育などにおける専門的な分野の方を招いての取組	○ 外部人材の活用場面 高校説明会、職業について学ぶ会、学習支援スタッフ、読み聞かせ、日本語指導、旅行社スタッフを活用した英語授業、防災学習、SDGs調べ学習・発表会、模擬選挙、本物に触れよう、高校教師による美術部指導、生き方を学ぶ会、金銭教育、FPによる金銭教育、パレット部活動支援（4回）、裁判官、動物飼育員、旅行プランナー	【成果指標】教職員 様々な体験活動において、外部人材が有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	100% A	◆ パラスポーツの体験や障害を持つ方との関わりを持つことも取り入れていって欲しい。	○ 引き続き、外部人材の友好的、計画的な活用
			【満足度指標】生徒 授業や行事で専門家の人の話や活動は、より勉強になる	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	92% A	92% A		
	② コミュニティー・スクール制度の積極的な活用 ・ PTAや生徒会と連携したボランティア活動の実施	○ ボランティアグループ「myan」の活動アナウンス ○ JRC委員会 ペットボトルキャップ等の回収	【努力指標】教職員 生徒にボランティア活動の積極的な参加を促すなどの推進に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A	◆ ボランティアへの関心が他に比べて低い。	○ ボランティア意識の高揚のための取組推進
			【成果指標】生徒 生徒会やPTAなどのボランティア活動に協力できている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	62% D	61% D	◆ 学校の活動だけではなく、地域の祭礼や清掃活動、防災活動等に中学生が参加しやすい環境を地域でも考えていく必要がある。	
	③ ★読書活動の推進 ・ 専任司書の有効活用	○ 図書室外での本紹介 学年ホール、生徒玄関 ○ 昼の放送での本紹介 ○ 使いやすい図書室整備 本棚の配置転換、雑誌の閲覧 ○ 図書館運動会 ○ 読み聞かせ ボランティアグループ＋学校司書 ○ 読書アンケートの実施	【努力指標】教職員 朝読書や図書館の活用など、読書活動の推進に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	94% B	94% B		○ 学校司書と連携した読書活動の推進
			【満足度指標】生徒 読書は好きである	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	72% A	68% B		
			図書室の利用度（貸し出し数、来館人数、不読率）	A:昨年度より20%増 B:昨年度より10%増 C:昨年度より増 D:昨年度より減	A 9～1月 貸し出し数45%増 来館人数37%増 不読率80%→67%	A 4～8月 貸し出し数42%増 来館人数67%増 不読率51%→5%		

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期 達成度	前期 達成度	学校関係者評価 （□報告内容と◆助言）	次年度の方向 （改善計画等）
3 生徒と向き合う時間の確保と積極的なコミュニケーション	① 学年担当全員で生徒を見る体制づくり ・ 朝学習や給食など、学年全員で指導する体制づくり ・ 学年担当全員で、総合的な学習の時間の指導ができる体制構築	○ 朝学習、給食時での全員指導体制の実施 ○ 学年総出での課題点検 ○ コロナ対策のための健康チェック	【成果指標】教職員 学年担当全員で生徒を育てていく体制ができてきている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	100% A	□ 前期同様、落ち着いた態度で生活している生徒が多く見られる。	○ 生徒と向き合う時間の確保の継続
			【成果指標】教職員 可能な限り、生徒と向き合う時間が確保されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B	95% B	□ 前期同様、朝の玄関指導、朝学習、給食、総合の時間など学年全体で指導し、生徒とのコミュニケーションも図っている。	
	② 職員室モニターの有効活用	○ 朝礼での連絡は最小限、モニターで連絡	【成果指標】教職員 職員室モニターが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	100% A		
	③ 水曜日の有効活用 ・ 職員関係の会議を水曜日に行うための日課の実施	○ 月2回の会議優先日の設定	【成果指標】教職員 生徒のいない（水曜日の放課後など）時に、会議が設定されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	100% A		
	④ 生徒指導の3機能による指導の充実 ・ 自己決定、存在感、共感的人間関係を意識した生徒指導 ・ ★いじめ、不登校対策の充実 小学校との積極的な連携 専門機関との連携を図りながらの教育相談体制の充実	○ 教育相談担当、教育相談員、SCの連携 不登校生徒宅への訪問 相談室登校生徒への支援 ○ 月1回のいじめ防止調査の実施 掲示による啓発活動 ○ 専門相談員の活用 ○ 道徳授業の様子の学年掲示 ○ さわやか賞の実施 ○ 月目標の取組 6月；時間を守ろう 7月；部活動を完全燃焼しよう 8月；規則正しい生活をしよう 9月；挨拶と身だしなみに心がけよう 10月；自分ルールをやり抜こう 11月；河中の3S活動（整理・整頓・清掃） 12月；気づきの行動（思いやり、遅刻） 1月；気づきの行動（挨拶、健康、身だしなみ） 2月；凡事徹底（時間・時刻、身だしなみ） 全校集会等での評価・指導の継続 ○ 体育祭・文化祭における生徒会活動の充実 執行部を中心とした運営、3年生を中心とした団づくり、意欲的な態度を身に付けさせる職員の指導とあらゆる面から成功への導いた。また、合唱コンクールではどのクラスも見事なまとまりと歌声を披露してくれた。 ○ 毎月実施のサポートアンケート 月に応じた内容を組み込む	【成果指標】教職員 SCや教育相談員との連携など、教育相談体制がより良く機能している	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B	95% B	□ 友達関係のトラブルが見られた。	○ ソーシャルスキルトレーニングの実施
			【努力指標】教職員 生徒に積極的に声かけるなど、生徒との交流に努めている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A	□ いじめの認知件数が市中学校平均と比べると多い。	○ いじめ防止対策の強化
			【努力指標】教職員 生徒を認めたり、励ましたりしながら長所を伸ばす指導をしている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A	□ 不登校傾向生徒は、担任や教育相談員等とつながり、登校が増えたり授業に参加できたりする生徒も現れた。	○ 相談室登校生徒への指導と支援のあり方の検討 ○ 教育相談部会の定期的な開催
			【満足度指標】生徒 先生はあなたの良いところをみとめてくれている	A:80% B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	88% A	91% A		
			【満足度指標】保護者 学校は、お子様をよく理解し、指導している	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	89% B	80% B	◆ ニックネームやあだ名がいじめの原因になることがあるようだ。教職員が正しい呼び方をして、生徒でいじめの原因となるような呼び名をしたときは、適切な対応が必要である。	
			【満足度指標】生徒 学校へ行くのは楽しい	A:90% B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	87% B	88% B		
			【満足度指標】保護者 お子様は、学校へ行くのが楽しいと言っている	A:90% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	89% B	85% B		○ 効果的な学校行事を行うための精選、内容の見直し
			【成果指標】生徒 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	A:100% B:95%以上 C:90%以上 D:90%未満	97% B	98% B		
			【満足度指標】保護者 学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組が伝わってくる	A:70% B:65%以上 C:60%以上 D:60%未満	64% C	58% D	◆ 学校便りが地区回覧されているので、学校の様子を知ることができる。	

重点目標	具体的取組	これまでの主な取組内容	評価の観点	達成度判断基準 C又はDの場合、再検討	後期 達成度	前期 達成度	学校関係者評価 （□報告内容と◆助言）	次年度の方向 （改善計画等）
4 ★多忙化改善のための体制構築及び推進	① 働き方改革の推進 ・ 校務分掌の役割分担の平準化 ・ 学校CNの活用促進 ・ ★PC活用の授業やペーパーレス会議等、ICT環境の整備	○ 学年会、各種委員会、主任会の連動した体制づくりによる効果的・効率的な運営 ○ 学校CNのコロナ対策や施設管理等での有効活用 消毒、清掃、健康チェック 安全点検、園芸作業 ○ ペーパーレスの職員会議の実施 ○ 分掌内での役割分担の見直し 学習指導部会（掲示担当者、全校集会で話す人が輪番） ○ 体育祭の内容縮小における時間外勤務の削減 ○ 集金業務分担の見直し	【成果指標】教職員 校務分掌の役割分担が適切で、効果的に運用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B	95% B	□ 担任のみならず、学年全体で生徒を見届け、見守る姿勢が定着してきた。特に、朝学習の時間では全員で指導していることで業務が平準化されていきている。	○ 校務分掌組織の見直し ○ 学年単位で行動するシステムづくり ○ 職員用端末の活用
			【成果指標】教職員 学校コーディネーターが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	100% A	100% A		
			【成果指標】教職員 ICT環境の整備で、業務が効率化されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B	95% B		
			【努力指標】教職員 勤務時間外を少なくするなど、面談シートで示した各自の働き方改革に関する目標達成に向けて取り組んでいる	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A		
			【成果指標】教職員 勤務時間外時間の比較	A:H30より30%減 月80時間超ゼロ B:H30より10%減 月80時間超10%未満 C:H30より減 月80時間超10%以上 D:H30より増 月80時間超20%以上	9～1月 H30より30%減 A 月80時間超21% D	6～8月 H30より13%減 C 月80時間超38% D	□ 多忙化改善の意識を更に高めていかなければならない。	○ 多忙化改善のための取組の徹底
	② コミュニティスクールプランの有効活用 ・ 学習支援スタッフの活用	○ 看護大生による学習支援スタッフ ○ 国際交流員による日本語指導 ○ 元教員による放課後自学学習支援	【成果指標】教職員 学習支援スタッフが有効活用されている	A:100% B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	95% B	95% B		
	③ 新型コロナウイルス感染症対策の実施 ・ 教育課程の見直し、行事の精選、適切な感染症対策の検討	○ 学校行事等の適切な対策 体育館や放送による全校集会の実施 学年対応による朝の検温 部活動における健康観察	【努力指標】教職員 先を見通して、授業をはじめとする教育活動をすすめている	A:100% B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	100% A	100% A	□ 新型コロナウイルス感染症対策が組織的、継続的に行われている。	○ コロナ対策の継続実施